

No.	⑫	分類	1-(1)-ア	資料名	還暦過ぎて学ぶ	学年	2・3年	領域	特別活動（学級活動）
-----	---	----	---------	-----	---------	----	------	----	------------

1 ねらい

- 学ぶことの楽しさや学校に行けることの喜びに気づき、学ぶ機会を求めようとする意欲をもつ。

2 趣旨

- 経済的な理由で学ぶことから疎遠にならざるをえなかったが、学ぶことへの意欲をもち続けることで人生を豊かにしていく姿について考えさせる。
- 学校での勉強だけが学びではなく、自分の可能性を拓いていくことが学ぶことであり、生きている限り学びへの姿勢を持ち続けることを理解させる。

3 配慮事項

- 中学校卒業後の進路は生徒によって様々である。進路については、個々の適正や興味・関心に応じて自分で決定することの重要性を認識させる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 学ぶことに対する思いを発表する。</p> <p style="text-align: center;">「学ぶ」という言葉を聞いてどんなことを思い浮かべますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の勉強 ・知識の習得 ・将来にとって必要なこと ・しんどいこと ・おもしろいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ」とはどのようなことか、そのことに対する印象はどのようなものか、自由に発言させる。 ・定時制高校について補足説明する。
<p>2 資料を読み、話し合う。</p> <p style="text-align: center;">なぜ「私」は高校に入ろうと思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中卒で悔しい思いをした。 ・数学ができなくて恥ずかしい思いをした。 ・分数の計算ができるようになり、うれしくてもっと学びたいと思った。 ・親友の娘さんの姿に感動した。 <p style="text-align: center;">「私」がみんな（中学生、若い世代）に伝えたいことは何だったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からなかったことが分かるようになるのは、本当におもしろい。 ・学ぶことで、生きる元気が生まれる。 ・学ぶことは自分から求められる。 ・学び直しはいつからでもできる。 ・学ぶことで人と出会え、その人たちから教えられることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に成功しながらも、計算ができずに悔しい思いをしてきたことを感じ取らせたい。 ・独学で学ぼうとした探求心のすばらしさを感じ取らせたい。 ・定時制高校で学び直すことで、私が得たものや感じたことについて考えさせたい。 ・私の経験から、現在学べる環境にいることを大切にしてほしいというメッセージを受け止めさせる。 ・私が、若い人たちとの交流から、学ぶことと楽しみを得ていることを感じ取らせたい。 ・学ぶことが、自分の感性を磨き、誇りや生きる意欲につながることを再認識させたい。 ・指導者が、学ぶことで得られた楽しみなど、自身の体験談を語るのもよい。
<p>3 自分がこれから追求し、研究し、深く学んでいきたいと思うことを考えてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学を学びたい。 ・サッカーの戦術を研究したい。 ・料理について極めたい。 	

5 参考

- 本資料は平成 21（2009）年度、兵庫県立神戸工業高校生が「定時制・通信制生徒生活体験発表会神戸地区大会」で発表した「還暦過ぎて学ぶ」を改編したものである。

参考資料

定時制高校について

【定時制の課程とは】

働きながら学びたい人、その他さまざまな目的で学ぼうとする人のために設けられている課程で、修業年限は3年以上となっています。教育内容は全日制課程と同じです。有職生徒には、教科書が原則として無償になるなど経済的負担が少なくてすみます。昼間や夜間の特別な時間帯に教育活動が行われます。午後1時頃から4時頃まで学ぶ昼間定時制と午後5時頃から9時頃まで学ぶ夜間定時制があります。

【多部制の課程とは】

複数の時間帯に教育活動が行われます。午前（1部）、午後（2部）、夜間（3部）の3つの部があり、いずれかの部に所属して学習します。それぞれの生活スタイルに合わせ、部をこえて時間割を組み、学習することもできます。

現在、西宮香風高校（普通科）、阪神昆陽高校（普通科）、西脇北高校（普通科）、飾磨工業高校（工業科）に設置されています。

県立西脇北高等学校の取組

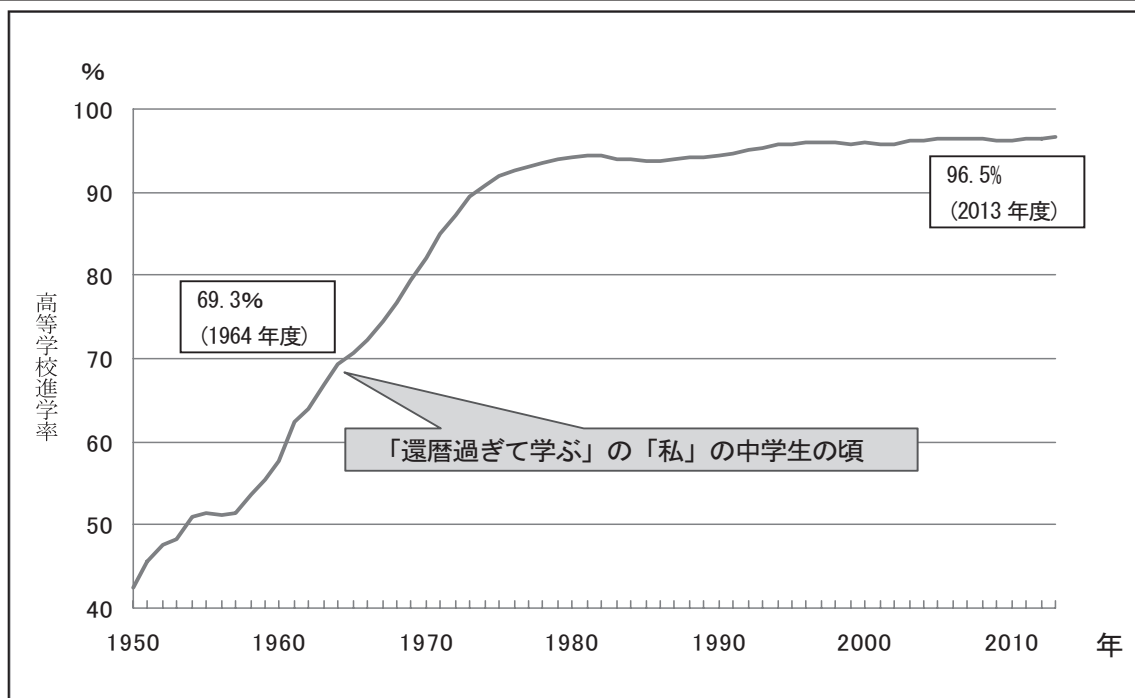
【震災ボランティア活動】

「微力ながら、参加者の一人一人が『心を尽くして、ひたむきに』作業をし、交流に臨み、『私たちは、忘れていません忘れません！』と力強いメッセージを伝えよう！」、県立西脇北高等学校の学校だよりにはこんな言葉が綴られています。

本校では、平成23（2011）年の東日本大地震発生以来、毎年、宮城県を訪れてボランティア活動を行っています。第1回目は、震災からわずか2ヶ月後の5月でした。排水溝にたまったヘドロをかき出し、住居から荷物を運び出しました。

翌年の第2回目は、砂浜の清掃活動や仮設住宅への訪問を行いました。平成25（2013）年の第3回目は、兵庫県内の農業高校から提供された花をもって仮設住宅を訪問しました。また津波で大打撃を受けた宮城の水産業の手伝いもしました。阪神・淡路大震災を体験した兵庫県の高校生として何ができるのかを考えながら活動を続けています。

高等学校への進学率（中学校卒業者のうち、高等学校等の本科・別科、高等専門学校に進学した者）



（文部科学省統計調査企画課「文部統計要覧」）

高等学校進学率は、高度経済成長期に上昇を続け、1970年代半ばに90%を超えた後、横ばいの状態に転じた。現在では約97%となっている。高度経済成長前期には中卒就職者が「金の卵」と呼ばれ、中学校卒業直後に集団就職列車で東京に出てくる時代が1954（昭和29）年から1975（昭和50）年まで続いた。1950年代前半の高校進学率は50%以下であった。